

平成22年5月28日現在

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2007～2009

課題番号：19592541

研究課題名（和文） 不妊治療中夫婦のリプロダクティブ・ヘルスケア
－夫婦支援のための看護介入の検討－研究課題名（英文） Reproductive healthcare for infertile couples
The analysis of nursing care plans

研究代表者

渡邊 実香（WATANABE MIKA）

中部大学・生命健康科学部・准教授

研究者番号：70345908

研究成果の概要（和文）：不妊治療を受けている夫婦の心理的支援に必要な看護介入プランを検討することを目的として2目標を掲げ研究を遂行した。(1)我が国における生殖医療施設の心理専門職者在籍施設は約半数であり、心理専門職者の設置割合は十分とはいえない状況であることが明らかになった。(2)不妊治療をともにうける男性の不妊経験理解は重要であり、男性へのインタビューより「治療」「社会」「病院」「妻」の4側面への感情・考え・行動に集約されており、治療を含めた生活に対する「平静さ」や「非言語化された気遣い」が特徴的であった。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study is to examine the nursing care plan for psychological support for infertile couples. It is based on two plans.

Plan (1) Psychological support for patients in infertility medical centers in Japan. Plan (2) Analysis of infertile experience of man.

Results Plan(1) A questionnaire was mailed to 594 institutions registered to perform clinical reproductive medical procedures, including in vitro fertilization and embryo transfer (IVT-ET), with The Japan Society of Obstetrics and Gynecology.

Some the psychology professionals on staff on the register facilities in the reproductive medicine facilities in our country were half the number.

It was clarified to psychology professionals on staff installation ratio enough that it was a situation that was not able to be said.

Plan (2) It was semi structurally interviewed 5men. The man's infertile experience and the experience of the fertility treatment were clarified. The experience of infertility and the treatment of the man was consolidated in feelings, the idea, and the action on four sides. Four sides were "Treatment", "Society", "Clinic", and "Wife."

The man's infertile experience and the experience are "Calm" and "Anxiety made non-verbal" to life including treatment.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	2,000,000	600,000	2,600,000
2008年度	900,000	270,000	1,170,000
2009年度	600,000	180,000	780,000
総計	3,500,000	1,050,000	4,550,000

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学・臨床看護学

キーワード：不妊・夫婦・不妊男性・心理的支援

1. 研究開始当初の背景

不妊治療の主たる担い手である女性の心理や心理的支援の必要性が明らかにされ、不妊女性自身へのケアが行われ始めているが、施設ごとの自助努力によるところが多い現状である。不妊女性が抱える問題には、個々の中で生じている否定的な情緒反応や夫婦間で生じる関係性の悪化などが特徴とされる。不妊治療は夫婦の協力が不可欠であり夫婦の関係性を考える場合、男性の不妊・不妊経験に対する理解が重要であるものの、男性への看護的なアプローチは少ないのが現状である。

2. 研究の目的

不妊治療を受けている夫婦の心理的支援に必要な看護介入プランを検討することを目的として、(1)生殖医療施設における心理的支援の現状の全国調査を行う。(2)不妊夫婦の支援を実施する上で男性の不妊経験の分析を行い、夫婦双方の理解を深めたいうで夫婦支援のための看護プランの指針を提案することを目標に設定した。

3. 研究の方法

目標(1)：2007年度日本産婦人科学会における体外受精・胚移植等生殖医学の臨床実施登録施設594施設を対象にアンケートを郵送し、登録施設における支援状況を心理専門職者の在籍数および支援内容の調査を実施した。目標(2)夫婦で不妊治療を開始している5名の男性に対する半構成的面接により内容を質的機能的に分析を行い男性の不妊経験および不妊治療の経験を明らかにした。インタビュー実施に先駆け、不妊専門相談センター主催の公開講座に参加した夫婦へのアンケートを実施し、不妊治療を受けている男性の生活実態を調査し、インタビューに備えた。

4. 研究成果

(1) 日本産婦人科学会における体外受精・胚移植等生殖医学の臨床実施登録施設594施設(2007年度)を対象にアンケートを郵送した。有効回答115施設(19.3%)中、心理専門職者が在籍していた施設数は、不妊

カウンセラー58施設(50.4%)、体外受精コーディネーター55施設(47.8%)、臨床心理士19施設(16.5%)であった。心理専門職者の在籍状況は、医療法人がその他の設置主体の施設より多い傾向がみられた(表1・表2)。外来者数とIVF-ET実施周期数($r=0.69$)、体外受精コーディネーター($r=0.39$)、臨床心理士数($r=0.27$)とは有意な相関が確認された($P<0.01$)。初診時個別面接の実施施設は82施設(71.3%)、治療中希望個別面接は71施設(61.7%)であり、いずれも看護師が担当する割合が最も多かった(表3・表4)。2009年7月現在、関連学会により輩出された不妊カウンセラーや体外受精コーディネーターなどの専門家の総数は、1000名を超えている。しかしながら、これらの心理専門職者の設置割合が約半数の施設にとどまっていた現状であることを受け、いまだ、十分な心理支援体制が整っているとは言い難く、今後も積極的な人材育成の必要性が示唆されたと考える。

本調査から心理専門職者の設置割合は十分とはいえない現状とともに、患者が心理支援を受ける機会増加の為に、看護師の専門的教育の普及が急務であることを提案した。

表1 施設概要

	生殖医療外来 平均患者数 (range)	IVF-ET周期数/年 (range)	IVF-ET50周期 以下施設数
医療施設全体 (n=115)	45.0 ± 38.1 (3-250)	252.3 ± 433.6 (0-3000)	29
医療法人 (n=60)	58.5 ± 43.3 (5-250)	338.0 ± 544.5 (2-3000)	8
大学独立法人 (n=19)	32.2 ± 25.7 (5-100)	125.1 ± 128.4 (5-390)	8
公立 (n=8)	20.1 ± 23.8 (4-70)	55.2 ± 103.4 (2-265)	5
その他 (n=28)	33.3 ± 26.1 (3-100)	188.9 ± 248.3 (0-945)	8

表2 不妊に関連した心理専門職者

設置主体	専門職種		不妊カウンセラー		体外受精コーディネーター		臨床心理士	
	設置施設割合%	平均人数(range)	設置施設割合%	平均人数(range)	設置施設割合%	平均人数(range)	設置施設割合%	平均人数(range)
医療施設全体 (n=115)	50.5%	1.2 ± 1.7 (0-9)	47.8%	1.0 ± 1.4 (0-7)	0.2 ± 0.4 (0-2)	21.7%	0.2 ± 0.4 (0-2)	21.7%
医療法人 (n=60)	63.3%	1.5 ± 1.6 (0-7)	61.7%	1.3 ± 1.3 (0-6)	0.3 ± 0.5 (0-2)	5.3%	0.1 ± 0.2 (0-1)	25%
大学独立法人 (n=19)	31.6%	0.7 ± 2.1 (0-9)	21.1%	0.2 ± 0.4 (0-1)	0.1 ± 0.2 (0-1)	25%	0.3 ± 0.3 (0-1)	10.7%
公立 (n=8)	25%	1.2 ± 1.5 (0-2)	25%	1.0 ± 1.6 (0-7)	0.3 ± 0.3 (0-1)	10.7%	0.1 ± 0.5 (0-1)	
その他 (n=28)	42.9%	0.5 ± 0.9 (0-2)	42.9%	1.0 ± 2.1 (0-6)	0.1 ± 0.5 (0-1)			

表3 心理的支援の現状

施設	初診時個別面接 実施施設数(%)	治療中個別面接 実施施設数(%)	体外受精説明会 実施施設数(%)	勉強会・学習会 実施施設数(%)	電話相談 実施施設数(%)	グループ支援 実施施設数(%)
	(費用)	(費用)	(費用)	(費用)	(費用)	(費用)
医療施設全体 (n=115)	82(71.3%) (0-5000円)	71(61.7%) (0-5000円)	79(68.7%) (0-7500円)	31(27.0%) (0-1000円)	46(40.0%) (0円)	12(10.4%) (0-500円)
医療法人 (n=60)	50(83%) (0-5000円)	45(75%) (0-5000円)	48(81.4%) (0-7500円)	19(32.2%) (0-1000円)	31(52.5%) (0円)	12(20.3%) (0-500円)
大学独立法人 (n=19)	8(42.1%) (0-5000円)	5(26.3%) (0-2000円)	9(47.4%) (0円)	2(10.5%) (0円)	4(21.1%) (0円)	0(0%)
公立 (n=8)	3(37.5%) (0円)	3(37.5%) (0円)	3(37.5%) (0円)	0(0%) (0円)	2(25.0%) (0円)	0(0%)
その他 (n=28)	21(75%) (0-3000円)	18(64.3%) (0-3250円)	18(64.3%) (0-2000円)	9(32.1%) (0円)	9(32.1%) (0円)	0(0%)

表4 面接の対応

	初診時施設数	治療中施設数
担当者	医師	8
	看護師	41
	臨床心理士	0
	エンブリオロジスト	11
時間	30分	16
	60分	7
費用	無料	37
	1000~3000円	6
	5000円	2

(2)本研究目的に先駆け、不妊専門相談センター主催の公開講座(愛知県)に参加した夫婦へのアンケート調査により、性差によって支援の希望内容に相違がみられた。女性はカウンセリングなどの個別対応による心理的支援、男性は勉強会による学習の機会を多く希望していた。このことは、夫婦で合意のもと不妊治療を行っていたとしても、男性と女性では、不妊・不妊治療による経験が異なることが推測された。そこで、夫婦で不妊治療を開始している男性の不妊・不妊経験をさらに明らかにすることを目的として、5名の男性に対して半構成的面接によりデータを収集し質的機能的に分析を行い男性の不妊経験および不妊治療の経験を明らかにした。5名の男性の不妊・治療の経験は、「治療」「社会」「病院」「妻」の4側面への感情・考え・行

動に集約されていた。特に、治療を継続するうえでの、【見通し】【覚悟】【静観さ】【平静さを装う】【自力での解決】などの経験は、不妊女性には見当たらないものであることのほか、妻への気遣いのほとんどは、非言語化された【心配り】【感謝・敬意】【尊重・協力】であることが不妊治療を経験している男性の特徴として見出された。不妊治療中の夫婦支援、特に不妊女性が抱える夫婦の関係性における問題解決に向けては、男性の感情・考え・行動的特徴を看護師などが伝えることでパートナーへの理解が深まり夫婦の関係性維持に向けたエンパワーメント能力が付与されるものと推測される。看護指針に基づいた具体的介入計画は今後、実施する予定である。しかしながら、今回のインタビュー協力者は、いずれも不妊原因が男性因子ではないこと、積極的な調査協力者であるという点において、得られた結果の一般化には尚早である。今後は、多様な背景の男性への調査により内容の蓄積を行い、臨床現場にて活用可能な看護指針作成を予定している。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 4 件)

- ① Mika Watanabe, Infertility support sought from local government: preliminary survey of needs among people who attended public lecture, Reproductive Medicine and Biology, 査読有, 2010, online First
- ② 渡邊実香, 生殖医療施設における患者支援に関する全国調査ー心理的支援の現状一、査読有、日本受精着床学会誌、vol27、

No. 2、2010、pp14-18

[学会発表] (計 4 件)

- ① 渡邊実香, 不妊治療施設における患者支援に関する全国調査ー心理的支援を担う専門職者の現状一、第 27 回日本受精着床学会、国立京都国際会館、2009
- ② 渡邊実香, 生殖医療施設における患者支援に関する全国調査ー心理的支援の現状一、タワーホール船堀 (東京)、第 23 回日本助産学会、2009

[図書] (計 1 件)

- ① 渡邊実香, 他、風媒社、女性の就労継続を困難にする理由、『AREANA2009』、2009、pp371-374

6. 研究組織

(1) 研究代表者

渡邊 実香 (WATANABE MIKA)

中部大学・生命健康科学部・准教授

研究者番号：70345908

(2) 研究分担者

横手 直美 (YOKOTE NAOMI)

日本赤十字広島看護大学・看護学部・准教授

研究者番号：10434573

(3) 連携研究者

なし